

## 我が国のキュレーション設備の現状

### Present status of The Curation Facility of Japan

# 藤村 彰夫 [1]; 矢田 達 [2]; 安部 正真 [3]; 田中 智 [1]; 加藤 學 [4]; 惑星物質試料受入設備仕様検討委員会 矢田 達 [5]  
# Akio Fujimura[1]; Toru Yada[2]; Masanao Abe[3]; Satoshi Tanaka[1]; Manabu Kato[4]; Yada Toru Advisory Committee for Planetary Sample Curation Facility[5]

[1] 宇宙研; [2] JAXA; [3] 宇宙研; [4] なし; [5] -

[1] ISAS; [2] JAXA; [3] ISAS/JAXA; [4] JAXA; [5] -

我が国の惑星探査機によって、惑星物質試料の回収が現実的となり、そのインフラとして惑星物質試料受け入れ設備(キュレーション設備)の製作が足掛け3年をかけて行われた。2008年3月に宇宙航空研究開発機構で出来上がった。この施設の概要と仕様についてを述べ現状報告を行う。

清浄なクリーンルームには種々の洗浄及びその評価を行う機器設備、一次記載を行う観察装置、試料を保管管理する設備などがある。またこの中には、試料を大気圧高純度窒素雰囲気、あるいは大気圧から超高真空の環境で取り扱うことのできるクリーンチャンバーを設置した。微小サンプルを清浄な環境の下で取り扱うことを想定した仕様であり、重希ガスサンプリングや秤量、分配、封入などでは特別な工夫をしている。

今後はこれの設備の試験的な運用を実施しつつ機能性能の評価を約1年間かけて行う予定である。